

Frontline vol.17

多様性とオープンネスが可能にするコラボレーティブイノベーション04
芦辺 洋司・竹内 薫

特集

企業改革の潮流と日立グループの考え方

一家一言 時代は企業価値を問いかけている09
福川 伸次

Technotalk 求められる企業改革とITへの期待10
森居 達郎・野田 健太郎・梶浦 敏範

Overview 企業改革の潮流と日立グループの取り組み13
Global Trends of Enterprise Innovation and Solutions Provided by Hitachi Group
八木 敬之・谷岡 克昭・川岡 明宏

日立グループのITガバナンス構築20
Establishment of IT Governance of Hitachi Group
山之内 茂英・遠藤 浩子

日立グループにおける内部統制整備24
評価体制の構築と日本企業への展開
Reconstruction of Internal Control in Hitachi
菅野 秀岳・逸見 徹・河辺 亮二・江原 寛昭

日立グループが一丸となって進める事業継続28
Hitachi Group Activities for Enhancing Business Continuity
小島 俊郎・安信 千津子・相羽 律子

IT部門の組織能力向上を支援する運営最適化ソリューション32
IT Management Solutions to Enhance IT Organization Capabilities
鎌田 春雄・近野 章二・神野 俊昭

日立グループが考える内部統制成熟モデルとリスクマネジメント基盤36
Basic Model for Risk Management Based on Internal Controls
伊藤 泰樹・小宮 文男・青山 ゆき・谷岡 克昭

グループ統一の内部統制制度と業務プロセス改革を同時展開する業務シェアドサービス40
株式会社日立マネジメントパートナーの事例
Strategic Shared-Service for Enterprise-Compliance and Business Process Reengineering
大西 倫典

企業価値向上を実現するワークスタイル改革ソリューション44
Workstyle Innovation Solution for Improving Corporate Value
立仙 和巳・水野 義信・日下 徹・竹林 康夫

情報漏洩リスク低減のための内部統制と情報資産管理48
Internal Control and Information Assets Management for Reducing Information Leakage Risk
甲斐 賢・荒井 正人・手塚 悟

内部統制を支えるストレージソリューション52
Storage Solutions for Internal Control
河村 義孝

戦略的な人材育成を実現する人材マネジメント56
Human Capital Management for Strategic Human Development
若山 浩志・加藤 祥史・木下 順一・田中 智基・辻 隆盛

企業価値向上に資する「エクスペリエンスデザイン」60
Experience Design for Enterprise Value Improvement
古谷 純・鹿志村 香・北川 央樹

Professional Report

高排温エンジン対応排気系耐熱鋳造材64
Heat Resistant Casting Materials for Exhaust Components of High Temperature Exhaust Gas Engine
伊藤 賢児

特集「企業改革の潮流と日立グループの考え方」

監修

日立製作所
情報・通信グループ
経営戦略室
uVALUE事業インキュベーション本部
担当本部長
梶浦 敏範



近年、メディアをにぎわす不祥事を背景に企業を見る目が厳しさを増している。1950年代の労使紛争、1970年代の公害問題以来の厳しさかもしれないと思う。一方、海外の取引先からは、日本の自然災害リスクの高さが指摘されている。

純粋な経営課題としては、敵対的買収にどう対応するかというものもあるが、まずは企業そのものの足元を固める意味で、内部統制、事業継続などの枠組み整備は焦眉の急となりつつある。経営そのものがグローバル化したことにより、従来の日本企業のように、自己流のリスク管理をし、外部へは内情を漏らさない姿勢ではいられなくなったのである。

このような企業改革の潮流の中で、日立グループは、お客様にどのような価値を提供できるのかを悩みながら努力してきた。その中間報告が本特集である。ここには、企業の基幹に成長してきたITを中心に、日立グループみずからの経験やソリューションを紹介する論文を集めている。

冒頭、戦後の産業行政を見つめてこられた福川様に、IT経営について御一言いただいた。続く座談会（テクノトーク）は、企業の活動を外部から見ることをテーマに、内部統制に詳しい会計士の方、事業継続に詳しい銀行員の方と議論させていただいた。

まず概説論文（Overview）として、本特集を総括する「企業改革の潮流と日立グループの取り組み」を置いた。ここでのキーワードは、「開示を前提としたリスク管理」である。内部統制や事業継続には、何をどこまでやるべきかという疑問が常につきまとう。しかし、情報開示をし、自社の位置づけがわかることは多くの企業が望むところではないかと考える。また、いかに良い取り組みをしても、だれにも知られなければ企業の市場での価値は変化しな

い。この二つの理由から、開示を前提としたリスク管理という概念が生まれたのである。

続いて、日立グループみずから取り組んだ事例として、ITガバナンスモデルの構築、内部統制整備（米国版SOX法対応）、事業継続ガイドラインの策定の3点をご紹介します。企業改革というものに日立グループが現在どう向き合っているかを具体的にお示ししたいと考えたものである。

以下、このような体験から生まれたソリューションとして、IT部門運営最適化、内部統制成熟モデルを支えるIT基盤、業務プロセス改革のためのシェアドサービス、ワークスタイル改革ソリューションの4点をご紹介します。お客様のために何をご提供できるかと考えた具体例である。

技術的なテーマとしては、証跡管理を可能とするデジタルフォレンジック、ストレージソリューションを取り上げている。企業内での管理はもちろん、開示を前提とする以上はステークホルダーに十分なエビデンスを示す必要があり、これらの技術はそのお役に立つと考えている。

最後に、直接的に改革に寄与しなくても、その構成要素と考えられる技術や思想を紹介した。戦略的な人材育成マネジメントとユーザビリティを高めるエクスペリエンスデザインの2点である。

政府は「イノベーション25」と題して2025年の日本の姿を示した。イノベーションの主役はやはり民間であり、企業であるべきと思う。イノベーションを起こす企業のためには、みずからを改革したうえでこれをステークホルダーに示し、広く社会の信頼を得なくてはならないだろう。日立グループは、みずからはもちろん多くのお客様の改革をお手伝いしたいと願っている。本特集を手にとっていたら、そういう印象を持っていたければ望外である。

特集

企業改革の潮流と 日立グループの考え方

近年、企業を取り巻く環境はめまぐるしく変化し、それに伴うように、企業自身にも改革の加速が求められている。

企業はどう変わらなければならないのか。改革の方向性の一つとしてクローズアップされているのが「企業としてのあるべき姿の実現」である。内部統制の強化、事業継続のための施策、CSR（企業の社会的責任）に基づく情報開示などを通じて、すべてのステークホルダーとの間に信頼を構築する。それと同時に、事業拡大と収益拡大を実現する。そのあるべき姿の実現に向け、多くの企業が改革に取り組み始めている。

改革の根幹を成すのは企業内の情報の最適化であり、そのために不可欠なのは、ITを活用した適切なソリューションである。日立グループは、みずからのあるべき姿をめざし、企業改革に取り組んでいる。その経験とノウハウは、さまざまなソリューションに活用され、新たな局面を迎えた企業改革を多角的に支援している。

Information

日立グループの映像ポータルサイト「HITACHI NOW」 新作を続々公開中!

<http://www.hitachi.co.jp/now>



「HITACHI NOW」は、日立グループのビジネスやサービス、技術をオリジナル映像で紹介する映像ポータルサイトです。

テーマごとに「日立の活動」、「ビジネス」、「技術・科学」、「歴史・文化」、「エンターテインメント・スポーツ」、「トピックス」というカテゴリーに分類しており、どなたでも簡単にお目当ての映像がご覧いただけます。エンターテインメント性の高いお楽しみ映像や、このサイトでしか見られない貴重な秘蔵フィルムも多数ご用意しています。ぜひご覧ください。

NEW

青森ねぶた2007 第一章)

真夏の夜空を熱く焦がす 日立連合ねぶた

日本を代表する火祭り「青森ねぶた」。日立グループは、昭和40年から日立連合として参加しています。日立連合の活動を追ったドキュメンタリー映像の第1弾では、ねぶた制作の過程や、日立専属の囃子方「凱立会」の本番に向けた練習風景などを紹介しています。



北米での社会貢献活動

企業とコミュニティの接点に立つて

日立グループは北米地域でもさまざまな社会貢献活動を行ってきました。今年はその活動が20周年を迎え、記念の年次総会が行われました。総会のレポートを中心に、日立グループの北米での社会貢献活動を紹介します。



柏レイソル2007

挑戦 進化し続けるタフネス

降格から一年でJ1復帰を果たしたレイソル。リーグ前半は上位に食い込むなど、健闘している新生レイソルのダイジェストを、注目の若手選手のインタビューなどを交えて紹介しています。



BOOK

日立の知的資本経営 Intellectual Capital Management

知識創造社会において企業価値をいかに高めるか

時代は急速に知識創造社会へと移行している。その中において、企業を取り巻く環境は大きく様変わりし、経営のあり方にも抜本的な見直しが進んでいる。従来の、目に見える「モノ」を中心とした見方ではなく、見えざる無形の知的資本を取り込み、企業価値へと高めていくことは、今日の企業にとって最も重要な経営課題と言える。

本書は、知的資本経営へ向けて、日立製作所が推進してきた経営改革の実績、およびその実現のための具体的なソリューションを紹介した実践書である。代表的な事例として、日立グループの事業コンセプトであるuVALUEをはじめ、社内のある業務ノウハウの再利用・新価値創造のための活

動であるSoFI (Solution Factory Initiative) や世界屈指のストレージ事業の中核を担う事業部の知的資本経営への取り組みなどを詳述している。また、企業・事業戦略のフレームワークに沿った戦略構想・立案から展開・運営方法に至る構築・マネジメント手法について解説し、顧客企業が知的資本経営を実現するためのイノベティブなソリューションを提案している。

日立製作所みずからの経験の中で獲得してきたノウハウ・方法を、具体的な事例を通して詳細に解説した内容であり、今後の知識創造社会における企業経営や事業戦略を考えるうえで有益なヒントとなる一冊である。



日立コンサルティング・アクセル編
中央経済社
定価2500円

日立評論

HITACHI HYORON

9月号特集監修

北野 昌宏
梶浦 敏範

企画委員

委員長	武田 英次
委員	大田黒 俊夫
〃	武田 晴夫
〃	中村 斉
〃	小野 浩二
〃	中尾 俊次
〃	三根 俊介
〃	大島 信幸
〃	渡辺 克行
〃	石井 潤市
〃	大野 浩市
〃	藤田 寿仁
〃	及川 喜弘
〃	小高 仁
〃	土井 秀明
〃	谷口 素也
〃	井上 晃
〃	水原 登
〃	荻原 淳

次号予告

次世代Wooワールド

日立評論第89巻第9号

発行日	2007年9月1日
発行	日立評論社 東京都千代田区外神田一丁目18番13号 〒101-8608 電話(03)3258-1111(大代)
編集兼発行人	荻原 淳
印刷	日立インターメディックス株式会社
定価	1部735円(本体700円)送料別
取次店	株式会社オーム社 東京都千代田区神田錦町三丁目1番地 〒101-8460 電話(03)3233-0641(代) 振替口座 00160-8-20018

本誌掲載の論文はインターネットでご覧いただけます。
日立評論 <http://www.hitachihyoron.com/>
HITACHI REVIEW (英文) <http://www.hitachi.com/rev/>
本誌に関する個人情報の取り扱いについて
<http://www.hitachihyoron.com/privacy/>
本誌に関するお問い合わせ
E-mail : kikanshi.senden.rw@hitachi.com